

4) 看護技術を支える要素 (図2)

看護技術の到達目標に沿って研修内容を組み立てる時には、単に手順に従って実施するのではなく、以下の「看護技術を支える要素」を全て確認した上で実施する必要がある。

(1) 医療安全の確保

- ① 安全確保対策の適用の判断と実施
- ② 事故防止に向けた、チーム医療に必要なコミュニケーション
- ③ 適切な感染管理に基づいた感染防止

(2) 患者及び家族への説明と助言

- ① 看護ケアに関する患者への十分な説明と患者の選択を支援するための働きかけ
- ② 家族への配慮や助言

(3) 的確な看護判断と適切な看護技術の提供

- ① 科学的根拠(知識)と観察に基づいた看護技術の必要性の判断
- ② 看護技術の正確な方法の熟知と実施によるリスクの予測
- ③ 患者の特性や状況に応じた看護技術の選択と応用
- ④ 患者にとって安楽な方法での看護技術の実施
- ⑤ 看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価

2 研修方法

1) 方法の適切な組合せ

○新人看護師研修に活用可能な教授法・学習法には表4に示すようなものがある。現場での教育、集合教育、自己学習を適切な形で組み合わせる。

○Off-JT と OJT の時間や組み合わせ方は研修目標に合わせて実施する。Off-JT→OJT OJT→Off-JT のスパイラル学習が効果的である。

この部分は
例えば講義が有効なのは、どのような研修内容の時なのか
などの適応例を示せるように作成し直す予定

表4 教授法・学習法の例

	名称	定義	備考
1	講義	ルールを先に教える方法。 原理原則を学習し、ルールにあてはまる事例へ応用する。	ルールは基本的に抽象的であるため、ルールを説明するため
2	課題学習	探求的学習の代表。 学習者が興味・関心に基づいて学習テーマを選び、学習を進めていく方法。共通学習をふまえて、課題の選択、個人およびグループでの課題学習、発表・討論を展開する。	

3	ロールプレイ	参加型・体験型学習形態のひとつ。 学習者がある人物になりきり、その役割・演技を通して、物事の本質を理解しようとするものやコミュニケーション能力を育成しようとする方法。	長所としては、①そのテーマを身近に感じられる、②自分とは異なる視点から物事をとらえられる、③物事の問題点に気づきやすい、④コミュニケーション能力が高められる、などの特長がある。
4	シミュレーション	シミュレーションとは、模擬体験あるいは模擬実験であり、現実に想定される条件をとり入れて実際に近い状況を作り出し、その状況について学習すること。	
5	個人学習 実技チェック リストを用いた学習	学習者が手順をうまく実践するために、一つ一つの行動をリストアップし評価する。	看護学教育においては、しばしば教育方略の中核となっている。
6	集団学習 グループワーク	小集団による体験学習を通して自己理解を深め、お互いの役割や影響力について学ぶ対人間関係能力を向上させるのに有効な学習方法。	

2) 研修の展開

○「看護職員として必要な基本姿勢と態度」については、早期に集合教育等において具体的に説明し、更に、患者の自己決定や患者の抑制等の医療の倫理的課題に関する事例検討等を通して、看護職員としての基本的な考え方を確認することが望ましい。

○技術習得は、講義→演習→シミュレーション研修→臨床現場で実践の順に行うことが有効である。

○シミュレーションをして、手技を実際に見せて、実際にやってもらって危なければ手をそえる、一人でやってもらう、といった段階的なOJTが大切である。

特に、侵襲性の高い行為については、事前に集合教育等により、新人看護師の修得状況を十分に確認した上で段階的に実践させる必要がある。

○段階（ステップ）ごとに評価し、出来なかった場合は1つ前の段階に戻るなどひとつずつ確認しながら研修を進める。

○エビデンスに基づいた看護技術を繰り返し練習する。リアルなシミュレーション訓練→リフレクションを行い、何ができるようになったのか、何が課題なのか見出すことが重要である。

○バイタルサインの観察等、看護の基本となる能力については、医療機器の数値にのみ頼って患者の状態を判断するのではなく、実際に患者に触れるなど、五感を用いて患者の状態を判断することの重要性を認識させ、その能力を養う必要がある。

○新人看護師研修では、この準備状態を踏まえて、医療チームの中で多重課題を抱えながら複数の患者を受け持ち、決められた時間内で優先度を判断し、安全に看護を提供するために必要な姿勢、知識及び技術に焦点を当てて指導する。